

所 信

川 口 雅 丈

はじめに

日本の経済は景気回復から一転、百年に一度といわれる大型不況に陥っており、私たちの住む秋田においても景気の回復を実感することもなく、さらに底なし沼の奥へと引きずり込まれたかのようにもがき苦しんでいます。また、経済が不安な状況に陥ると呼応するかのようにさまざまな社会問題が取りざたされています。一連の原因の一つとして、身勝手な利己主義や道徳心の欠如など、我々（人間）が物質的な豊かさを求めるあまりに大切な心を失いかけているのではないのでしょうか。

この失いかけている大切な心を取り戻して行くことこそが、我々が目指す「明るい心豊かな社会の実現」につながるのではないのでしょうか。

日本の心を継承

我々が目指す社会の実現には、人と人との心のつながりが欠かせません。しかしながら昨今、個人の身勝手な言動や他への無関心さが多く感じられます。日本において古くから受け継がれている「物を大切に作る心」や「他人を思いやる心」、「感謝する心」など、「倫理観」や「道徳観」といった先人から受け継がれてきた「日本の心」を我々青年が真摯に学び、日々の活動を通じて実践していくことが必要です。また、地域を築きあげてきた人生の諸先輩方と共に運動する事で、まちとしてのベクトルを1つにして次世代に繋げ、持続可能な社会を実現する事が子育て世代である我々の責務であり、青年としての使命であると考えます。

地域の責任世代として

現在、我々の地球（いえ）が断末魔に似た悲鳴を上げています。我々のこの地球（いえ）は未来の世代から預かったものであり、そこには全世界60億人の人々が共同で生活をしています。団体生活で大切なのは、互いに尊重し合う気持ちと譲り合いを続ける努力だと思います。今、我々自身が何かをするにあたり、二歩先三歩先、そして未来を見据え、一人ひとりが無責任な考えを持たず、また、「意味がない」とか「無駄だよ」と諦めるのではなく、青年会議所として様々な問題や課題に真摯に取り組んでいくことが必要です。そして、メンバー一人ひとりが日々の生活においても率先して行動し、それを地域の人々に粘り強く広めていくことが重要だと考えます。

真の公益を目指して

2008年に新しい公益法人制度にかかわる法律が施行されました。我々の(社)秋田青年会議所も同年総会において公益社団法人格取得を決議し、今日まで取得に向け制度改革対応の知識や、議論を重ねて参りました。青年会議所しかなかった時代から青年会議所もある時代となりました。これまで我々が培ってきたものや組織進化のあり方を十二分に踏まえたうえで、公益社団法人格取得申請を視野に入れ、より具体的に制度改革を行って参ります。また、公益社団法人格を取得するための公益団体ではなく、より地域に頼られ求められる公益法人たらんとすることを考え、実践して参ります。

地域を愛する想いを拡げるために

我々(社)秋田青年会議所は「明るい心豊かな社会の実現」に向けて日々の活動を続け、地域を愛する想いを人々に投げかけてまいりました。我々の住む秋田は人口減少に歯止めがかからず、青年会議所メンバーもここ数年は減少傾向にあります。一人より二人、二人より三人というように、同じ想いをもつ仲間が増え、その仲間たちが個々に想いを伝えて行くことが重要だと考えます。そのためには、先輩諸兄の創始の精神を今一度確認し、メンバー一人ひとりが日々の生活を通して実践し、我々の活動をより広く市民に伝えていくことが必要です。そして、同じ想いを持つ仲間を募り、より地域を愛する想いを大きくし、その想いを持って行動していくことが、我々の理想とする「明るい心豊かな社会の実現」に向けて必要不可欠であり、そのためにもメンバーが一丸となって地域を愛する想いを拡げてまいります。

こんな苦しい時に「JCなんて」という言葉をよく耳にいたしますが、こんな時代だからこそ我々が率先して、企業人としてJayceeとして地域のために何ができるかを真摯に考え、断固たる決意をもって行動し、「明るい心豊かな社会の実現」に向けて万難を排して突き進んでいく必要があるのです。

また、我々には失敗を糧とする時間（若さ）があります。私はJC活動において失敗とは自らが諦めたときであると思います。事に向かう前から諦めるのではなく、山積するさまざまな課題から目をそむけることなく、そして自己に限界線を引かずに、それを乗り越えていくことが我々青年に課せられた使命なのではないでしょうか。

現状に甘んじることなく、更なるステージへと昇り、地域のために、未来のために、「明るい心豊かな社会の実現」に向けて挑戦し続けましょう！